

# 漢字・語彙指導の根拠としてのコーパスの役割

河内 昭浩 (安田女子大学文学部) †

## The Role of Corpus as Evidence for *Kanji* and Vocabulary Instruction

Akihiro Kawauchi (Faculty of letters, Yasuda Women's University)

### 1. はじめに

発表者は、特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班（代表；田中牧郎氏）の一員として、コーパスの国語教育への応用を模索してきた。本発表では、国語科学習指導、特に漢字・語彙指導においてコーパスの果たす役割について述べる。常用漢字表の改定に伴い、国語教育で指導すべき漢字について、改めて検証することが求められている。ここでは、言語政策班で作成した「教科書コーパス」を用いて、指導すべき常用漢字の選定のための資料の提示を行う。

また文学教材において指導すべき語彙とその指導方法について、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」をもとに設定された、「語彙レベル」を用いた提案を行う。

コーパスの国語教育への応用として、これまでコーパスを活用した新たな教材の開発や、ICT 教材の一つとしてコーパスを授業で活用することなどを試みてきた。それらの開発・活用は今後も継続する課題である。今回の提案は、従来の国語科の指導事項や指導方法を、コーパスを用いて評価し、その指導の根拠を与えるというものである。今回は、漢字・語彙指導に焦点を当てているが、様々な国語科の学習の「指導の根拠」として、コーパスはこれから大きな役割を果たしていくものと考えている。

### 2. 指導すべき漢字の選定

平成 22 年 11 月、改定常用漢字表が内閣告示された。これまで 1945 字であった常用漢字は、196 字追加、5 字削除により、計 2136 字になった。改定に伴い、中学校国語科で学年別に取り扱う常用漢字の数が増加されたが、具体的に、どの漢字をいつ指導するかは定められていない。

常用漢字表の性格は、「一般の社会生活における漢字使用の目安」とされている。またその「一般の社会生活における漢字使用」とは、「義務教育における学習を終えた後、ある程度実社会や学校での生活を経た人を対象として考え」とされている。一方国語教育においても、子どもの生活に資する漢字指導を施すことが求められている。その上で、中学校終了時まで「常用漢字の大体を読むこと」を指導することになっている。

では漢字使用の場面において、具体的にどこまでが、国語教育の想定する子どもの現在の「生活」で、どこからが、常用漢字表の想定する将来の「一般の社会生活」なのか。社会生活の場面を区切り、その境を実証的に明らかにすることは現状では困難である。そこで次善の策として、「教科書」における漢字の読み書きを、まずは子どもの生活における漢字使用の場面と位置づけたい。教科書は子どもの日常生活（学校生活）の基幹であり、そ

---

† kawauchi@yasuda-u.ac.jp

の内容は、子どもを社会生活へと導く手だてである。各教科の教科書で、出現頻度の高い漢字、重要度の高い漢字を、まずは子どもの生活に必要な漢字ととらえたい。そしてその上で、今後、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」等を用いて、「一般の社会生活」における漢字使用の状況を明らかにしていきたい。

今回はまず、全常用漢字 2136 字の、小中学校教科書における出現状況を概観する。また、教科別の常用漢字の出現頻度を示し、指導方法について提言を行う。さらに、教科書における出現順位と、常用漢字表の改定の際に使用された「漢字出現頻度表順位対照表」の順位とを比較、検討し、中学校における段階的な常用漢字の指導の、一つの指針となるデータを提示する。

尚、こうした漢字に関する考察は、言語政策班において、相澤正夫氏や棚橋尚子氏らによって進められてきた。本発表はそれらの研究より教示を仰いでいる。

以下、発表時に掲示する資料の一部とその概要を述べる。

#### [資料 1] 小中学校教科書 常用漢字出現順位総合表

小中学校教科書における出現順位を軸に、全常用漢字 2136 字の、各教科における順位を示したものである。漢字の種類を、[教育] (学年別漢字配当表に示された漢字、1006 字)、[常用] (改定前から常用漢字表にあり、[教育] 以外の漢字、934 字)、[新規] (新しく常用漢字表に加えられた漢字、196 字) に区分している。発表時に資料を提示する。

#### [資料 2] 小中学校教科書順位 種類別出現状況表

[資料 2] は、常用漢字の種類 ([教育]、[常用]、[新規]) の教科書における出現傾向をつかむために作成したものである。250 字ごとの、[教育]、[常用]、[新規] 漢字の割合を示している。1 位から 1000 位まででは、[教育] 漢字の割合が高く、1000 位以降は、[常用] 漢字の割合が高くなっている。

小中学校教科書順位	[教育]		[常用]		[新規]	
	数	割合	数	割合	数	割合
1 ~ 250	250	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
251 ~ 500	245	98.0%	4	1.6%	1	0.4%
501 ~ 750	219	85.9%	34	13.3%	2	0.8%
751 ~ 1000	159	64.9%	83	33.9%	3	1.2%
1001 ~ 1250	99	39.4%	144	57.4%	8	3.2%
1251 ~ 1500	29	11.5%	215	85.0%	9	3.6%
1501 ~ 1750	3	1.2%	228	91.2%	19	7.6%
1751 ~ 2000	2	0.7%	221	81.0%	50	18.3%
2001 ~ 2136	0	0.0%	5	4.6%	104	95.4%
	1006	47.1%	934	43.7%	196	9.2%

#### [資料 3] ① 小中学校教科書順位上位 [常用] 漢字表

- ② 書籍順位上位 [常用] 漢字表
- ③ 小中学校教科書順位上位 [新規] 漢字表
- ④ 書籍順位上位 [新規] 漢字表
- ⑤ 小中学校教科書順位下位 [教育] 漢字表
- ⑥ 書籍順位下位 [教育] 漢字表

[資料3]は、資料2で把握した傾向をもとに、どの[常用]、[新規]漢字が出現上位となっているのか、またどの[教育]漢字が出現下位となっているのかを示したものである。また対照として、常用漢字表の改定の際に使用された、凸版印刷作成による「漢字出現頻度表順位対照表」のデータを借り、[書籍順位]として付記している。①は、教科書の上位に入る[常用]漢字を示している。色のついている漢字は、対照の書籍順位では上位には入らないことを示している。②は、書籍で上位に入る[常用]漢字を示している。①、②を見ると、教科書と書籍では、数の違いだけではなく、上位となる[常用]漢字そのものに違いがあることが分かる。③、④は、教科書、書籍で上位に入る[新規]漢字を示している。[新規]上位漢字では、書籍では上位に来ても教科書では上位に来ない漢字が多い。また⑤、⑥は教科書、書籍で下位となる漢字を示している。下位漢字では、書籍では下位に来ても教科書では比較的上位に来る漢字が多い。特に「秒」(661位)、「磁」(553位)、「銅」(563位)、「径」(553位)など、教科書ではかなり上位に入る[教育]漢字が、書籍では下位になる。(⑤、⑥については、発表時に資料を提示する。)

①小中学校教科書順位上位 [常用]

小中順位	常用	書籍順位
264	環	713
390	江	290
430	響	694
452	影	500
506	鮮	592
507	震	822
511	項	1154
513	僕	454
517	違	255
535	微	965
544	離	396
555	施	730
559	胞	1239
565	介	376
576	換	924
576	溶	1545
605	歳	268
622	彼	53

②書籍順位上位 [常用]

書籍順位	常用	小中順位
53	彼	622
91	郎	697
181	込	876
255	違	517
256	吉	636
268	歳	605
272	井	743
290	江	390
349	御	793
370	突	1001
376	介	565
396	離	544
423	撃	1069
429	振	826
452	奥	1147
454	僕	513
455	佐	1130
456	頼	870

③ 小中学校教科書順位上位 [新規]

小中順位	新規	書籍順位
465	岡	532
688	阪	855
743	奈	786
779	藤	264
796	韓	860
955	鹿	1022

④ 書籍順位上位 [新規]

書籍順位	新規	小中順位
264	藤	779
414	誰	1651
474	俺	2064
532	岡	465
561	頃	1815
786	奈	743
855	阪	688
860	韓	796
909	弥	1006
985	那	1298

[資料4] 各教科出現順位上位漢字表

[資料4] は、[国語] 以外の各教科の、出現順位上位の漢字を列举したものである。それぞれ [国語] の順位を対照させてある。一瞥して、各教科の学習内容に沿う漢字が多いことが分かる。

[資料4] 各教科出現順位上位漢字表(一部)

数学順位	数学	国語順位	理科順位	理科	国語順位	社会順位	社会	国語順位
1	数	153	1	物	33	1	国	84
2	形	57	2	水	91	2	人	1
3	方	15	3	気	36	3	地	61
4	算	1031	4	電	334	4	日	13
5	角	539	5	化	173	5	本	17
6	分	6	6	動	54	6	大	14
7	何	55	7	調	68	7	年	34
8	式	369	8	体	60	8	生	11
9	表	20	9	変	103	9	中	12
10	長	95	10	図	159	10	業	269
11	次	52	11	酸	1144	11	調	68
12	考	22	12	地	61	12	行	31
13	求	523	13	分	6	13	市	292
14	計	362	14	大	14	14	会	44
15	図	159	15	素	604	15	自	30
16	線	285	16	流	176	16	見	7
17	面	127	17	生	11	17	学	35
18	問	115	18	質	250	18	県	276
19	点	97	19	中	12	19	世	102
20	辺	476	20	見	7	20	民	355
21	直	209	21	合	25	21	政	808

[資料5] 各教科特徴漢字 出現頻度・文例集

[資料5] は、[資料4] をもとに、国語以外の各教科での出現頻度は高いが、国語ではあまり見られない漢字とその文例をまとめたものである。こうした他教科の学習内容に深くかかわる漢字を、他教科の学習事項と連関させる形で、国語科の中で指導していくべきだと考えている。例えば、数学（算数）上位の漢字、「算」は、今年度採択のM社の国語の教科書を見ると、小学2年生の「ことばの指導」のページに、「算数」という単語が挙げられているのみで、その「算数」という単語1語をもって、「算」という新出漢字を学ぶことになっている。それよりは、[資料5] で示したような文脈（「たし算のしかたを考えよう」など）の中で、学ぶことができたほうが、子どもたちにとってより有意義である。

また、[新規] 漢字には、主に都道府県名で用いられる漢字（阪、奈など）が新たに加えられている。学年別漢字配当表に配当された漢字ではないこれらの漢字は、国語科では中学校で、新出漢字として扱うことになる。しかし一方で、新しい小学校学習指導要領社会では、[第3学年及び第4学年]の段階で、都道府県名の指導を行うことが明記されている。子どもたちが社会科で、興味関心をもって都道府県名を学ぶその時に、国語科で、都道府県名の漢字を指導することができれば、小学生の学習全体に一貫性を与えることができる。

このように、他教科の学習内容を国語科の教科書教材に意欲的に取り入れていくことによって、子どもたちの知の連関が、国語を基軸に生まれていくはずである。

[資料5] 各教科特徴漢字 出現頻度・文例集（一部）

数学	種類	配当	小中計	小計	中計	文例
算	教育	2	1619	1352	267	たし <b>算</b> のしかたを考えよう。ひっ <b>算</b> でしましょう。(小2)
等	教育	3	566	174	392	この>, <のしるしを不 <b>等</b> 号といいます。(小3)
倍	教育	3	424	343	81	何 <b>倍</b> かをもとめるときは、わり算を使います。(小3)
値	教育	4	348	52	296	この本の <b>値</b> 段は、雑誌の値段の5/3倍です。(小6)
理科	種類	配当	小中計	小計	中計	文例
酸	教育	5	876	297	579	ホウ <b>酸</b> のとけかたを調べよう。(小5)
液	教育	5	569	225	344	ヨウ素 <b>液</b> にひたす。(小5)
管	教育	4	312	128	184	色水を入れた試験 <b>管</b> 。(小4)
炭	教育	3	310	96	214	石油や石 <b>炭</b> などは、便利なエネルギー(小4)
塩	教育	4	277	165	112	氷に、水と食 <b>塩</b> をまぜたものをかける。(小4)
社会	種類	配当	小中計	小計	中計	文例
政	教育	5	880	134	746	大使館や <b>政</b> 府観光局から資料を送ってもらう。(小5)
域	教育	6	793	129	664	工業地域を京葉工業地 <b>域</b> というんだね。(小5)
権	教育	6	660	96	564	人 <b>権</b> や報道被害の問題も頭に入れて、(小5)
府	教育	4	601	126	475	[ ]は、都道 <b>府</b> 県をしめしています。(小3・4)

今回は、「教科書コーパス」と、常用漢字表の改定の際に使用された、「漢字出現頻度表順位対照表」のデータをもとに資料を作成した。今後は「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を用いて、より、社会生活に必要な漢字の選定を行っていきたい。また、「教科書コーパス」のデータも更新していく予定である。さらに、他教科の学習内容を取り入れた、国語科における教材化の具体案を今後提示していくつもりである。

### 3. 文学教材の語彙指導

教科書の文学教材には、脚注欄に、文やイラストなどで説明の施される語句（以下、「語注語句」と呼ぶ）と、語彙の学習を行うための語句（以下、「注意語句」と呼ぶ）が配置される。語注語句は、生徒の本文読解を補助する役割を持つ。逆に言えば、大人が、そのままでは子どもたちが理解できないであろう、読解のために解説が必要であろうと考える語句に注が付けられていることになる。また注意語句は、その語句を用いて類義語や対義語などの語彙の学習を行うために列記される。つまり教材中の注意語句は、社会生活を行う上で習得が必要な語句であると判断されていることになる。

それらの妥当性を判断するために、「語彙レベル」を使用する。特に、流通実態（図書館）サブコーパスの、書籍における語彙レベル（以下、「レベル\_LB」と記す）と語注語句、注意語句との相関について述べる。流通実態（図書館）サブコーパスは、公共図書館のデータを基に、書き言葉の流通の実態を反映させた、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を構成する一つのサブコーパスである。そこでのレベルが高いということは、社会で流通している、つまり社会生活上重要度が高い語句ととらえることができる。逆にレベルの低い語句は、社会生活上重要度が低く、子どもたちが、知らない、理解できない語句である可能性が高いと言える。従って役割から考えれば、語注語句は、レベル\_LB の下位(d・e)であり、注意語句はレベル\_LB の上位(a・b)であることが妥当であると考えられる。

このような観点から、教材「羅生門」及び教材「走れメロス」の語彙を分析した結果を資料として提示する。

尚、こうした文学教材の語彙の検証にはすでに、田中(2011)による中学校教科書定番教材の「少年の日の思い出」の語彙研究や、鈴木(2011)による、本発表でも扱う、中学校の「走れメロス」の語彙研究などがある。

#### [資料1] 「羅生門」の語注語句

教材「羅生門」の語注語句を、レベル別に掲げたのが [資料1] である。語句の多くはレベル\_LB の d・e に相当するものが多い。ただ中には、「山吹」や「きりぎりす」といった一見平易と思われる語も下位にある。大人には馴染み深く感じられる動植物の語彙が、現代語の流通実態としてすでにあまり見られなくなっていることが分かる。

レベル_LB	語注語句
a	(該当なし)
b	楼 太刀 鞘
c	烏帽子 朱雀 局所 申 くさめ やもり しらみ 墓
d	下人 検非違使 きりぎりす 弩 羅生(門) 太刀帯
e	旧記 洛中 狐狸 低回 築地 丹塗り 市女(笠) 山吹 萱 火桶

[資料2] 「羅生門」の語彙と語彙レベルの相関

教材「羅生門」の主な語彙をレベル別に示したものが[資料2]である。下線部は、[資料1]で示した語注語句に当たる。レベル下位の語彙の中には、生徒が「知らない」などとは思ってもよらない語彙が見られる。例えば「羅生門」の冒頭文の語彙レベルは以下の通りとなる。

ある日の暮れ方(e)のことである。一人の下人(d)が、羅生(e)門の下で雨やみ(e)を待っていた。

「下人」、「羅生門」は語注語句である。一方「暮れ方」、「雨やみ」に語注を付ける教科書はない。しかしレベル\_LBにおいて「下人」はd、「羅生(門)」「暮れ方」「雨やみ」はeといずれも現代語においてほとんど流通していない語彙であることが分かる。「下人」、「羅生門」と同様に、「暮れ方」、「雨やみ」も、生徒にとって「知らない」、「見たことがない」語彙である可能性が高いことになる。そのように考えると、この冒頭文は、読み馴染んだ大人(教師)が思う以上に、生徒にとっては難文である可能性がある。

また、こうした語彙レベルをもとに語注語句、注意語句の選定を行っていくことで、客観性と統一性のある、文学教材における語彙指導を行うことができるようになる。

[資料2] 「羅生門」の語彙と語彙レベル

レベル_LB	羅生門の語彙
a	(漢語) 人 門 匹 以上 市 地震 料 始末 習慣 気味 近所 たくさん 勿論 段 主人 当時 適当 模様 影響 けしき 次第 手段 死 道 結局 当然 積極 勇気 風 遠慮 範囲 数 人間 事実 人形 部分 一層 瞬間 感情 多分 恐怖 呼吸 記者 丁度 同時 問題 合理 自分 無言 無理 全然 意志 支配 意識 得意 満足 役人 現在 大体 意味
b	(漢語) 火事 仏像 金銀 修理 胡麻 糞 紺 格別 途方 肯定 搥 草履 死骸 好奇 老婆 悪 反感 未練 執拗 明白 生死 憎悪 成就 時分 平凡 先方 寸 色 白髪 (和語) 太刀 鞘
c	(漢語) 円柱 烏帽子 飢饉 死人 点々 永年 朱雀 局所 臭気 嗅覚 木片 善悪 勝敗 眼球 円満 肉食 失望 侮蔑 気色 (和語) 申 蟋蟀 大路 さびれる 打ち砕く 盗人 点々 引き取る 棄てる 棲む 飛びまわる 上の空 夕焼け にきび くさめ (くしゃみ) やもり 暇 吹き抜ける 虱 墓 大股 目下 鋼 安らか 見下す 鬢
d	(漢語) 格別 衰微 余波 大儀 中段 下人 検非違使 存外 (和語) きりぎりす 雨風 床板 簀 手荒い (固有) 羅生(門) 太刀帯
e	(漢語) 旧記 仏具 箔 洛中 狐狸 刻限 低徊 逢着 腐爛 暫時 語弊 冷然 (和語) 雨やみ 築地 暮れ方 丹塗り 市女(笠) 山吹 壺 火桶 干魚 白髪頭 喉仏

[資料3] 「走れメロス」の語注語句(○)と注意語句(●)(レベルe)

[資料3][資料4]は、各社の中学校教科書における、教材「走れメロス」の、レベル別の語注語句と注意語句の一覧である(一部)。「走れメロス」は全社掲載の定番教材である。

しかし語彙指導の観点は必ずしも一致していない。また、同じレベルでも、語注語句とされるものと注意語句とされるものがあり、今後その妥当性を検証していく必要がある。

	M社	K社	T社	S社	G社	レベル_LB
竹馬の友	●	●	●	●	●	e
乱心		●				e
巡邏	○	○	○	○	○	e
悪びれる		●				e
私欲	●					e
無二	●	●	●		●	e
やつぱら			○			e
車軸(を流す)	○	○	○	○	○	e
喜色		●				e
信実	○	●	●	●	●	e
照覧	○	●	○	●		e
胴震い		●				e
五臓	○	●	○		○	e
残光		●				e
刑吏		○		○	○	e

[資料4] 「走れメロス」の語注語句(○)と注意語句(●)(レベルa)

	M社	K社	T社	S社	G社	レベル_LB
正当	●		●			a
まさしく	●					a
精神			●			a
まさか	●					a
義務		●		●		a
徐々(に)			●			a

#### 4. まとめ

コーパスから得られる情報を照射することで、国語科の指導に新たな展望が開けてくる。この確信を形に変えるべく、今後も提言を続けていきたいと考えている。

#### 文献

- 文化審議会答申(2010)「改定常用漢字表 基本的な考え方」  
 文部科学省(2008)「中学校学習指導要領 第2章第1節 国語 第3学年2内容 ㊦(i)」pp.20  
 田中牧郎(2011)「語彙レベルに基づく重要語彙リストの作成—国語施策・国語教育での活用のために—」  
 『特定領域研究「日本語コーパス」言語政策班報告書 言語政策に役立つ、コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』pp.77-88  
 田中牧郎(2011)『『少年の日の思い出』の語彙指導』前同、pp.195-204  
 鈴木一史(2011)「学習意識と語彙～実生活で生きてはたらく語彙～」『教育科学国語教育 No.736』明治図書、pp.84-87